

# ぎがかい だより



仁木小学校6年生 議場見学

- 02 第1回臨時町議会
- 05 第2回定例町議会
- 08 一般質問 町政を問う
- 24 常任委員会レポート
- 27 議会トピックス

6人が登壇



過去の議会だよりを  
ご覧いただけます

# 第1回 臨時町議会

## 5月22日開催

第1回臨時輪之内町議会が5月22日に招集され、議会を開きました。

議長選挙後、会期を1日と定め、副議長の選挙及び各常任委員会委員などの選任が行われました。

続いて町長から提出された専決処分3件、人事案件1件が上程され、慎重審議の結果、いずれも原案のとおり承認・同意しました。

議長 小寺 強 氏

副議長 高橋 愛子 氏

総務産業建設  
常任委員長 浅野 重行 氏

文教厚生  
常任委員長 大橋 慶裕 氏

議会運営委員長 林 日出雄 氏



議員氏名  
当選回数  
党派

### 新議員の紹介



田中 政治  
7回  
無所属



小寺 強  
7回  
無所属



高橋 愛子  
6回  
無所属



上野 賢二  
4回  
無所属



浅野 進  
2回  
日本共産党



浅野 重行  
2回  
無所属



林 日出雄  
2回  
無所属



大橋 慶裕  
2回  
無所属



田中 実  
1回  
無所属

## 議長・副議長あいさつ

町民の皆さまには、日頃より町議会に対し温かいご支援、ご理解を賜り厚くお礼申し上げます。

今年5月の地方選挙後の初議会で、議員各位のご推挙により、議長・副議長の要職を努めさせていただくことになりました。誠に身に余る光栄でありますと共に、その責任の重大さを痛感しているところであります。特に今年度は安八郡、西南濃、さらに岐阜県の町村議会議長会の会長をも務めることから、議長の負う責務は例年以上であると認識し、その職を全うするため鋭意努力してまいります。

さて、輪之内町では新しい議員が1人誕生しました。ここ数年は、コロナ禍で思うような議員活動ができない時期もありましたが、これからはウィズコロナ時代です。今後、新議員を含めた議員9人が一丸となって、町政推進に全力で取り組んでまいりますので、一層のご支援ご協力を賜りますようお願いを申し上げます。

最後になりますが、皆さまのご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げ、就任のあいさつとさせていただきます。



小寺 強 議長



高橋 愛子 副議長

輪之内町議会議長 小 寺 強  
副議長 高 橋 愛 子

## 初議員のひとこと

「町民が住みやすい町」実現に全力を尽くします。

私の信条は「真実一路」であります。

真実を信じてそれを貫き、町民のみなさまのため誠を尽くして毎日地味ながら着実な政治活動をしていこうと思います。

町発展のため何が必要か真剣に考え、人一倍勉強し政策を立案し実現に向け努力していきたいと思います。

あなたの声を町政にお届けいたしたいと思います。

ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い致します。



田中 実 議員

新人議員 田 中 実

# 令和5年度 輪之内町議会役員構成表

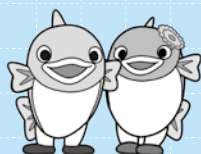
(令和5年5月22日)

◎委員長 ○副委員長

委員会等の名称	人員	議員氏名
議長	1	小寺 強
副議長	1	高橋 愛子
総務産業建設常任委員会	9	◎ 浅野 重行 ○ 林 日出雄 田中 政治 小寺 強 高橋 愛子 上野 賢二 浅野 進 大橋 慶裕 田中 実
文教厚生常任委員会	9	◎ 大橋 慶裕 ○ 田中 実 田中 政治 小寺 強 高橋 愛子 上野 賢二 浅野 進 浅野 重行 林 日出雄
議会運営委員会	4	◎ 林 日出雄 ○ 高橋 愛子 田中 政治 上野 賢二
監査委員	1	田中 政治
議会広報編集委員会	4	◎ 大橋 慶裕 ○ 田中 実 浅野 重行 林 日出雄
国民健康保険事業の 運営に関する協議会	3	上野 賢二 浅野 重行 田中 実
環境審議会	1	文教厚生 委員長 大橋 慶裕
人権施策推進指針策定委員	1	文教厚生 委員長 大橋 慶裕
民生委員推薦会	1	上野 賢二
公民館運営審議会	3	上野 賢二 浅野 進 大橋 慶裕
給食センター運営委員会	3	浅野 進 浅野 重行 林 日出雄
選奨生選考委員会	3	浅野 進 林 日出雄 田中 実
青少年育成町民会議	3	文教厚生 委員長 大橋 慶裕 高橋 愛子 田中 政治
植物防疫協会	3	仁木 田中 政治 福束 大橋 慶裕 大藪 林 日出雄
農業振興地域整備促進協議会	3	浅野 重行 大橋 慶裕 田中 実
空き家等対策協議会	1	総務産業 建設委員長 浅野 重行
都市計画審議会	3	議長 小寺 強 上野 賢二 浅野 重行
土地開発公社	2	議長 小寺 強 副議長 高橋 愛子
下水道推進協議会	3	議長 小寺 強 副議長 高橋 愛子 総務産業 建設委員長 浅野 重行
総合戦略推進委員会	1	議長 小寺 強
公共施設等総合管理計画検討委員会	1	議長 小寺 強
防災会議	1	議長 小寺 強
あすわ苑老人福祉施設事務組合議会	3	議長 小寺 強 副議長 高橋 愛子 文教厚生 委員長 大橋 慶裕
安八郡広域連合議会	3	議長 小寺 強 副議長 高橋 愛子 文教厚生 委員長 大橋 慶裕
岐阜県共同募金会輪之内町分会	2	文教厚生 委員長 大橋 慶裕 田中 実

第 2 回  
定 例 会

7月6～14日



令和 5 年度 補正予算

一般会計 1億1,235万6千円 を追加

7月定例議会は、監査委員の専任同意、農業委員会委員の任命同意、固定資産評価審査委員会の委員の選任同意、令和5年度一般会計補正予算1件、令和4年度水道事業決算の認定及び剰余金の処分、条例改正4件の合計10件が初日に上程され、人事案件3件、条例改正4件が可決されました。

また、固定資産評価審査委員に小澤和隆氏、監査委員には田中耕氏が選任され、県後期高齢者医療広域連合議会議員には、朝倉町長が選ばれました。

最終日の14日は、補正予算、決算関係は所管の常任委員会の付託を受け、慎重に審査・審議の結果、原案可決し、閉会しました。



小寺 強 議長

### 固定資産評価審査委員会の 委員に

**小澤 和隆 氏**

任期3年間のうち残任期間の

令和5年7月20日～

令和6年9月30日まで

### 監査委員に 新任の

**田中 耕 氏**



任期(4年間)

令和5年7月13日～

令和9年7月12日まで

### 県後期高齢者医療広域連合 議会議員に町長が選ばれる

7月6日に県後期高齢者医療広域連合議会議員の選挙が行われ、選挙の方法は指名推薦によることに決定し、議長の指名により朝倉和仁町長が選ばれた。

令和5年度  
一般会計補正予算（第2号）  
1億1,235万6千円追加

歳出の主な補正

総務費

- 財産管理費（修繕料） 385万5千円
- 公共交通対策費 130万円

民生費

- 社会福祉総務費（電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金等） 1,627万円
- 児童福祉総務費（第二子以降出産祝金支給事業費補助金等） 403万5千円
- 児童手当費（子育て世帯生活支援特別給付金等） 339万3千円

衛生費

- 予防費（会計年度任用職員報酬、通信運搬費、予防接種委託料、オペレーター派遣委託料等） 2,362万6千円

商工費

- 商工振興費（物価高騰における産業支援金等） 3,748万9千円

消防費

- 防災費（防災備品購入費等） 1,176万8千円

教育費

- 事務局費（備品購入費等） 287万4千円
- 学校給食費（賄材料費） 299万4千円

既定の予算総額に歳入歳出それぞれ1億1,235万6千円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ50億7,826万9千円と定めるものです。

歳入の主な補正

国庫支出金 / 国庫負担金

- 衛生費国庫負担金（新型コロナウイルスワクチン接種対策費国庫負担金） 1,255万6千円

国庫支出金 / 国庫補助金

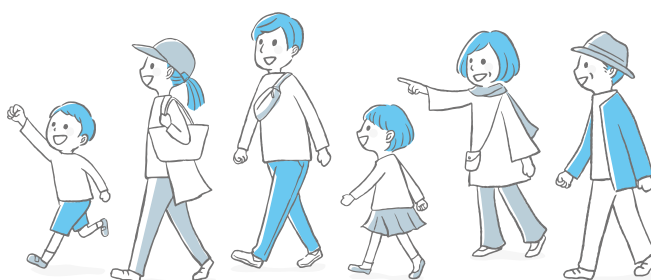
- 総務費国庫補助金（地方創生臨時交付金） 4,474万1千円
- 民生費国庫補助金（子育て世帯生活支援特別給付金事業費補助金等） 338万4千円
- 衛生費国庫補助金（新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業費国庫補助金） 970万5千円

県支出金 / 県補助金

- 民生費県補助金（第二子以降出産祝金支給事業費補助金） 404万4千円

繰越金

- 繰越金 3,634万4千円



## 令和5年度 一般会計補正予算（第3号） 270万7千円追加

既定の予算総額に歳入歳出それぞれ270万7千円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ50億8,097万6千円と定めるものです。

### 歳出の主な補正

#### 消防費

- 非常備消防費（消防団員出動報酬等）  
270万7千円

### 歳入の主な補正

#### 分担金及び負担金

- 教育費負担金（留守家庭児童教室負担金）  
△912万1千円

#### 使用料及び手数料

- 教育使用料（放課後児童クラブ利用料）  
912万1千円

## 令和4年度水道事業の決算の認定について

令和4年度において、給配水施設の維持修繕などの工事を行うとともに、清浄かつ低廉な水の安定供給と経費の節減等健全経営に努めた結果、事業収益1億2,610万6千円、事業費用1億246万6千円となり、損益計算による当年度純利益は、2,364万円となりました。

一方、資本的収支につきましては、収入が246万1千円に対し、支出は、下水道工事に伴う配水管の布設替など工事及び企業債償還金で6,411万7千円となり、6,165万6千円の不足が生じたので、過年度分損益勘定留保資金、当年度分減債積立金、建設改良積立金及び消費税資本的収支調整額で補填しました。

## 令和4年度輪之内町水道事業の剰余金処分について

地方公営企業法の規定に基づき、当年度末、未処理利益剰余金4億3,809万270円の内2,226万1,362円を減債基金に積立処分しようとするもの。

## 条 例

### ● 輪之内町留守家庭児童教室の設置等に関する条例の一部を改正する条例について

児童福祉法改正により放課後児童健全事業の法定化に伴う教室名の変更をしようとするもの。

### ● 輪之内町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について

### ● 輪之内町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について

### ● 輪之内町児童発達支援事業施設設置条例の一部を改正する条例について

上記いずれも、「こども家庭庁設置法の施行に伴う関係法律の整備に関する法律」等の施行に伴う関係府令・省令の改正に対応するもの。



# 町政を問う 一般質問

(原文掲載)

## 田中 実 議員の質問

### 1. 朝の通勤本当に困ってます — 福東大橋渋滞解消について

福東大橋渋滞については、過去多くの議員が質問されております。

住民は、福東大橋の渋滞に困っています。ある意味あきらめではやく福東大橋の南に橋が建設されるのを祈るような気持ちの町民の方も大勢います。しかし新大橋建設には、何年もかかることが予想されます。

過去町議会で町長の答弁は県道なので県に要望を伝えるとの答弁でありました。

これでは、何遍質問しても問題が解決できません。これは、輪之内町内で起きている問題です。

お聞きします。この件について大垣市、大垣市議会、大垣選出県議会議員、安八地区選出県議会議員のみなさんと協議されたことはありますか。

岐阜県と町との議論では、ある意味限界です。関係者がスクラムを組む必要があると思います。

また町民の方から福東大橋の迂回車両で堤防下道路が危険な状態とお聞きしました。

通常道路には、白や黄色の線が引いてありますが、緑の線グリーンベルトは、交通安全、特に学童の事故防止を訴えるものです。鮮やかなグリーンは、人の目を引きます。

当分の間児童の安全を守るため緑の線を道路に引く工事を要望致します。

輪之内町では、私の知る限り過去に2人の県職員OBが町長に就任され県庁のパイプを使って多



田中 実 議員

くの事業を成し遂げられ町政発展に多大な貢献をされました。

しかしながら福東大橋渋滞問題だけは尽力されましたが、道半ばで解決できませんでした。大変残念なことです。

新町長は県庁で都市計画道路を所管する元都市建築部次長という経歴でこの問題を解決するのに最適の人として町長選挙で多くの町民が支持し期待するところであります。

県庁とのパイプをアピールされておりましたがそのパイプを使って福東大橋渋滞問題を早期解決してください。

過去の有能な県職員OBの町長でも出来なかったもので、私には出来ませんとって町長就任そうそう町民のみなさんの期待を裏切るのか、37年間の県職員生活で得た経験と人脈を活かし国、県、隣接する市町とのつながりを一層強め早期解決に努力するといわれるのか。決意のほどをお聞きします。

## 町長答弁

福東大橋の渋滞につきましては、長年の懸案事項であり、主要地方道羽島養老線の開通以来、様々な対策が講じられておりますが、根本的な渋滞の解消に到っていないのが実状であります。

ご質問にありました「大垣市、大垣市議会、大垣・安八選出の県議会議員との協議」については、大垣市、羽島市、海津市、養老町、輪之内町、安八町の3市3町により構成する「主要地方道羽島



「養老線改良促進期成同盟会」により、毎年、市町の首長及び議長、関係市町の県議が、県に対し要望活動も行っており、問題意識の共有は図られています。今年度も来週 18 日に岐阜県に対し要望を実施する予定となっています。

ご存じのように、羽島養老線は、揖斐川・古宮川・水門川といった河川上に設置されているため交差点付近の改良には物理的制約があり困難を極めております。

他方で、国や県により、周辺の東海環状自動車道や大垣江南線長良川新橋などの道路網について整備が進められておりますとともに、当町においても周辺市町で構成する「新養老大橋（仮称）架橋建設促進期成同盟会」において牧田川・揖斐川を渡河する長大橋の整備を要望し、県において検討が進められております。加えて県にあっては、局所的な渋滞軽減対策を検討されており、具体的には、現在、国道 258 号の横曽根 3 交差点の滞留長を東に延伸し、信号待ちの間に滞留する車両台数を増やすことで、交通処理能力を向上するという方策です。また、福東大橋西詰交差点を南進し、養老方面に抜ける堤防道路は現在、通行出来ない状態ではありますが、国が進める水門川排水機



朝倉 和仁 町長

場の改修工事が完了した後は、通行可能となり、渋滞解消に繋がると期待しているところであります。

一方、ご提案のありました、堤防下道路のグリーンベルトの設置については、児童生徒の交通事故抑止に有効であるとの認識は同じでありますので、設置に向け、前向きに検討してまいります。

福東大橋の渋滞問題を解消するためには、継続的な取り組みと地域全体の協力が欠かせません。引き続き住民の皆様や地域の関係者、県関係機関との協力を深めながら、今後より一層、福東大橋の渋滞解消に取り組んでまいります。

## 2. なぜ輪之内に消防署ができないのですか —大垣消防組合の負担金と輪之内分署の新設について

日頃輪之内町の消防・救急体制を担っていただいております大垣消防組合には、感謝申し上げます。

輪之内町民が安心安全に過ごせるのは、大垣消防組合のおかげであります。

つきましては、大垣消防組合の負担金と輪之内分署の新設についてお聞きしたいと思います。

大垣消防組合消防本部の 2022 消防年報によると令和 4 年度各市町負担金と構成比が公表されています。

それを見ますと大垣市は令和 2 年国勢調査人口 153,306 人で 14 億 4,051 万 5,000 円の負担金で輪之内町は同じく令和 2 年国勢調査人口 9,654 人で 1 億 4,064 万 6,000 円の負担金です。

これを住民一人当たりで換算すると大垣市民は 9,396 円の負担で輪之内町民は 14,568 円の負担になります。

ゴルフをする方からお話を聞くとゴルフ場の会員と会員でない方は、プレーのサービス内容は変わりませんがプレー料金は会員と会員でない方は、差があるということです。

お聞きします。輪之内町は、大垣消防組合の会員ではないのですか。

よく地方自治は最小の経費で最大の成果を得ることがよいとされますが、大垣消防組合の負担金は輪之内町にとって最大の経費で最小の成果しか得てないのでは、ないですか。

令和 5 年度も町予算 50 億円程度で 1 億 5,125 万円も支払予定です。

どのようにこの負担金の差を輪之内町民に説明されますか。

よく考えてください。これは私たちの大切な税金の使い道のことです。

いままで何度輪之内分署を要望しても建設して

もらえないのは、なんとなく理由がわかりました。

お聞きします。輪之内町民は大垣市民より多額の負担をしてなぜ輪之内分署が新設出来ないのですか。町長の見解をお聞きします。

## 町長答弁

現在、大垣消防組合の負担金の算出方法は「人口割 30%」、「基準財政割 70%」で算出するルールとなっておりますが、この算出ルールは、平成元年 3 月の組合議会から適用、施行されていると聞き及んでおります。

それまでは、「基準財政割」のみで算出されていたようですが、一部自治体から、大垣市の負担が軽いので人口割を導入するよう提案があり、組合議会で協議され、今日に至っているものと聞いております。

令和 4 年度の輪之内町の負担が大きいという議員のご指摘につきましては、算出の基礎となる「基準財政割」が普通交付税の消防費の基準財政

需要額を使用しており、令和 4 年度の消防費の基準財政需要額が令和 3 年度に比較して、10.49%、1,944 万 7 千円上がったことが原因で当町の負担割合が増となったものでございます。

続いて、輪之内分署の新設について、言い換えれば南分署の当町への誘致についてお答えします。

本件に関しましては、令和 3 年 12 月 20 日に輪之内町長、輪之内町議長、大垣市長、大垣市議長の 4 者の協議において、大垣市横曽根にある現在の署舎の南隣地の土地に建設するとの結論が出されたと聞き及んでおります。

## 危機管理課長答弁

大垣消防組合中消防署南分署の建設地の選定の協議経過についてご説明します。

協議については、都合 2 年間で 18 回の協議を経て最終的に、先程町長が申し上げた結論に至っております。

まずもって、大垣消防組合の各署舎の建設計画は、平成 27 年度から検討を始められ、向こう 15 力年間計画をもって進められているものでございます。

建設更新計画によると、近年の計画では、北部署、北署、東分署の順で更新計画が進められておりました。

ところが、南分署の老朽化が激しいため、計画を前倒しして令和 4 年に設計、5 年度から 6 年度にかけて南分署の建設更新を進めるべく、令和元年 7 月に南分署管内における最適地の検討を開始されております。

その検討箇所は、輪之内町内の 4 か所（県道羽島養老線沿いの福束や里地内）を含めた 12 か所での調査を開始し、最終的に 3 か所（現南分署南側、輪之内町地内の旧 JA 福束給油所西側、輪之内町地内の焼肉勝美東側）の 3 つに絞られ、最終的に現南分署南側を選定することで方向性を見出したことを令和 2 年 3 月 26 日開催の大垣消防組

合議会の全員協議会の場で公表されました。

その席上、木野町長は、「社会経済状況や交通状況の変化に的確に対応できる施設、位置であってほしい。輪之内町にとっては、火災救急の現場到着の遅れというのが無視できない。特に福束橋の渋滞の状況等について、分署の位置決定について重要な要素だと思っている。慎重に検討をお願いしたい。」と要望しました。

その後、事務方同士の協議に入りました。

結論に至るまでの論点を整理し、要約すると、南分署建設地の検討結果としては、庁舎の建設地として求める条件として、

- ① 管轄する区域内の中心部に位置すること。
- ② 管轄区域へのアクセスが良いこと。
- ③ 比較的浸水に強い場所であること。
- ④ 整形な土地が確保できること。
- ⑤ 組合管内全体の消防署所の配置が均等になること。

を条件として、候補地を 3 か所に絞り込んでおられます。

さらに、適正配置の考え方は、消防力の整備指針に基づくものとし、

- ① 消防署は市街地に設置するものである。
- ② 建物火災における隣棟建物への延焼阻止に

許される時間は、6.5分

放水準備時間を2分とすると、走行時間は4.5分

- ③ 救急車の現場到着時間についても、4.5分以内が適当

それらを網羅し、4.5分以内に到着する範囲の消防需要値が最大となる場所を消防署建設の最適地とするという見解でした。

ちなみに、消防需要値とは、建物火災の発生件数や救急の出動件数から、それぞれの区域における需要値を数値化したものをいいます。

その他、検討における留意事項として、

- ① 福東大橋の渋滞による遅延については、常時混雑しているわけではない、また、仮に橋の影響で遅れるとすれば、需要値を勘案しても大垣市内の事案に遅れる方が影響は大きい。
- ② 安八スマートインターチェンジの開通により、渋滞時には高速利用も可能である。南分署隊の利用に限らず、中隊が利用することで、輪之内町への現場到着時間の短縮もできる。

また、大垣消防組合管内全体のバランスからすると、揖斐川以東の安八町、輪之内町、大垣市墨俣地域の人口は約3万人であり、管内人口約22万人の1/7程である。

消防署所を7か所設置することを考えると揖斐川以東に消防署所を2か所設けることはバランス的に良くない。1か所とするのであれば、輪之内町側でなく安八町側に設置することが妥当である。

輪之内町については、現南分署及び東分署の双方から駆け付けることができる。

特に消防署所の設置場所については、南分署からの現場到着時間で4.5分以内に現場到着できる区域における人口が多い場所が消防力配置の効果が高いため、適正配置検討結果のとおり、現在地の隣地に設置することが一番良いとの見解でした。

一方、当町としては、過去より建替時には輪之内町地内への南分署建設が必要と表明しており、組合議会全員協議会においても幾度となく要望を重ねてきたこと。

当該案件は、過去町議会における一般質問でも取り上げられ、行政としても町内への建設を強く要望していきたい旨答弁を繰り返してきたこと。

輪之内町第五次総合計画においても、基本計画における防犯・防災分野において、中期的方向性として、常備消防機関の設置を強く要望していく旨記載していること。

その経緯としては、総合計画策定時の審議会において、委員よりこの項目を盛り込むよう強い要望により盛り込んだ経緯があること。

いわば、当町における大きな行政課題と位置付けており、輪之内町としては南分署候補地の決定については、関係者間の事前合意が必要と考えており、従って、適切な時期に当町関係者を含めての協議をお願いすることと併せて、合意成立を待たずに計画を進めることは容認できるものではないというスタンスで協議を開始しております。

具体的には、輪之内町側としては、南分署管内における人口、災害件数ともに輪之内町が占める割合は大きいので、輪之内町内に設置する方が自然ではないか。

特に救急では、搬送先病院（特に多い）大垣市民病院、徳洲会病院は、横曽根から町内に入って、折り返しの時間を勘案すると、病院収容まで30分～40分要すると思われる。

そこで、輪之内町内に署所を設置すれば、折り返しの時間が縮減できることから、10分は速くなる（南分署所管の大垣市地内は5分程遅くなる）と思慮する。

大垣市の名神高速道路以南は、中消防署が応援に入れば特に問題視する点は無いと思慮する。

福東大橋渋滞に関連する到着時間遅延の懸念等々これらの他にも様々なデータ分析により協議を進めて参りました。

しかしながら、結果的に、「人口密度」に重点を置くという見解で、変わらず現在地の横曽根地内が最適地という結果を譲られませんでした。

冒頭で、都合18回の協議を経たと説明しましたが、その内訳は、

- 大垣消防組合議会全員協議会の場合が2回、
- 事務方同士の協議が、10回、
- 輪之内町議会全員協議会の場合が3回、
- 町長と大垣市長との協議が1回、
- 町長、議長、大垣市長、議長の4者会談が2回、

それぞれ協議を進めております。

特に、輪之内町議会議員全員協議会では、まず、令和3年2月18日の全員協議会の席上、今までの協議結果を情報共有すべく南分署建設における経過とその計画内容を説明しております。その際、議会側から「この問題は、行政側だけに任せるのではなく、議会側も行政と一体となって取り組んでいく」ことを確認されました。

また、令和3年7月19日の輪之内町議会全員協議会の席上で、「7月2日に開催された組合議会臨時全員協議会において、輪之内町から住民に理解を得るための時間が欲しいと要望し、建設予定地の決定を年内を目途に見出すことで合意した」協議結果を議長から報告がありました。

そして、令和3年12月3日輪之内町全員協議会において、南分署建替えに伴う建設場所について協議を行い、今までの協議結果を報告するとともに、当町としての見解を見出しました。

その見解としては、今まで様々な角度から協議してきたが結果は変わらなかったこと。その経過を踏まえると今後継続協議しても結論は変わらない。

今後懸念される大規模災害時の大垣消防組合の体制と輪之内町への対応体制について一定の評価ができる事、また、今後予定されている安八町地内の東分署の建替えについて、広域的見地から場所等の検討要望を出していることから、今般の南分署の建設場所については、大垣消防組合側の結論とすることに対して、全議員の了承を得て結論とし、町長答弁のとおり、令和3年12月20日

に輪之内町長、議長、大垣市長、大垣市議長の4者協議をもって協議を終えております。



### 3. 高校受験の春は泣かせない — 高校受験生の塾代の助成について

中学3年といえば、中学校を卒業し、多くの生徒が高校に入学する時期です。

小中学校に通った児童・生徒の初めての人生の試練であります。

中学3年生のみなさんがんばってと心の中で祈っているのは、私だけでは、ないと思います。

受験生がいる保護者の方は大変です。なぜなら子どもへの教育費は年々負担が増し、高校受験に向けた塾代の捻出は一般家庭においても容易ではありません。

学校教育が重要なのは、言うまでもありませんが、子どもの学校外教育が担う割合が年々大きくなっております。

しかし、家庭の経済状況によって教育費に差があるのが現実です。

令和4年度学校基本調査によると輪之内町の中学卒業生107名中106名実に99.1%が高校に進学しております。

子育て世帯の経済的負担を軽減するとともに中学3年生対象に人生の試練に立ち向かう受験生に進学塾代月1万円の助成はできませんか。

進学塾の助成は、ぜひたくですか。受験生の親は、必死なんですよ。その心情を分かってください。いま進学塾に通っていない家庭でも月1万円出れば通えるかもしれません。

戊申戦争で敗北した長岡藩は他藩から送られた救援米100俵を藩土に分けず学校を設立しました。「100俵の米も、食えばたちまちなくなるが、教育にあてれば明日の1万、100万俵となる。」いわゆる米100俵の故事であります。輪中3年生に米100俵送ろうでは、ありませんか。教育長の見解をお聞きします。

## 教育長答弁

平成 30 年の文科省調査によりますと、公立中学校の 3 年生が進学塾へ費やす 1 年間の費用の平均は、約 31 万円です。他にも模擬試験代や集中講座の受講料などがかかる場合があり、家計への影響は大きいものがあるといえます。

東京都のように、一定所得以下の世帯の中学 3 年生や高校 3 年生に対して、学習塾などの受講料や高校・大学の受験料を無利子で貸し付け、入学すれば返済が免除されるという制度を導入している自治体もあります。

ただ、同調査によると、公立中学校の 3 年生で進学塾に通っている生徒の割合は、約 70% です。田中実議員のご指摘のように、経済的な理由から進学塾に通いたくても通えない生徒がある一方、生徒や保護者の意思で進学塾に通わないという選択をしている場合もあります。

生徒の個性や才能を伸ばす場所は、高校進学のための進学塾だけでなく、文化・芸術、スポーツ教室などもあります。したがって、助成を行うに



長屋 英人 教育長

しても進学塾に限定するのではなく、多様な教育サービスを対象とすることが望ましいと考えます。

また、中学 3 年生への助成制度は、子育て支援、少子化対策、生活困窮世帯対応の一環として考えるべきで、多面的かつ総合的な取り組みが必要です。町としてどのようなサービスを提供していくことが望ましいのか、検討を進めていきます。

## 4. 土日勤務の保護者もいます — 土日祝日保育について

子どもがいる家庭にとって、住んでいる町でどのような子育て支援が受けることができるかは気になるところです。

子育てによる負担を軽減し、安心して子育てできる環境をつくるため、行政はさまざまな子育て支援策を町民に提供し、他の市町村が実施していない独自の子育て支援策も積極的に実施すべきだと思います。

輪之内町は、令和 2 年 3 月に、次世代育成支援対策推進法に基づく後期行動計画として「第 2 期輪之内町子ども・子育て支援事業計画」を策定し、子育て支援事業に取り組んでいます。

平成 30 年度に、子育てについて、より身近なところで相談しやすく専門的なまたは深刻な相談にも対応できるよう「輪之内町子育て世代包括支援センター」を開設しました。

現在町では、子ども・子育て支援法で法定化された事業として地域子育て支援拠点事業の拡充、利用者支援事業、ファミリー・サポート・センター

事業があり町単独事業として「がんばる子育てサポート事業」があります。

その代表的なものに町単独事業として「がんばる子育てサポート事業」の中に休日保育の検討があります。その内容は、保護者の休日就労等に対応するため、日曜・祝日等においても保育できるように体制整備に努めますとあります。

昔は、土日は、保護者が家にいるので家庭で保育してくださいとっておりましたが今は昔と違いサービス業が拡大してシフト勤務が当たり前の時代では、日曜・祝日勤務の方も多と思います。休日保育の実施がないのは利用希望の人が少ないのが理由でなく町が積極的に保育を受け入れない行政の姿勢が利用希望者を減らしているのではないですか。

国に言われて計画に入れた絵に描いた餅でなく、実現に努力してもらいたいです。

子育て支援が一番大切です。町長の見解をお聞きします。

## 町長答弁

ご質問のとおり、核家族化や共働き家庭の増加など、保護者の就業形態も多様化しています。

町では現在、土曜勤務等のある方について、こども園の保護者の事前希望により、午前8時15分から午後4時半まで土曜保育を実施しております。

現在土曜保育は、3園分をまとめて1園で、保育教諭2人体制にて、希望者園児の保育を行っており、1回あたり2～5名程の園児が利用されています。

また、お盆の時期なども、各園にて対応できるよう事前に希望を取り、保育を実施している状況でございます。

来年度は、保護者のご要望を踏まえ、まずは、保育標準認定の園児について、土曜保育の時間を午前8時から午後5時まで、時間の延長を行うよう体制を整備して参ります。

その他、ファミリー・サポート・センター事業として、輪之内町社会福祉協議会にコミュニティママ子育てサポート事業を委託しております。小

学3年生以下の児童がいる子育ての援助を受けたい人と、子育ての援助を行いたい人が会員となり、子育てを助け合うもので、土日・祝日も利用ができる体制を整えております。

また、令和4年度からは子育て短期支援事業を開始しました。児童を養育している家庭の保護者が病気、冠婚葬祭、出張、育児疲れなど養育が短期間困難となった場合、児童養護施設等で一時的に養育する事業で、これまでに3施設と契約を締結しております。

休日の保育については、その必要性を十分に認識しておりますが、最近は保育教諭の確保が極めて厳しい状況にあり、採用後も適正な勤務体制の維持に苦慮しているのが実状であります。

引き続き保育現場の環境・職員の確保・保育の充実に努め、今年度予定しております、子育て支援のニーズ調査も踏まえ、ご意見をいただき進めて参りますとともに、新たな取り組みについて積極的に周知を図り、より多くの方々にご利用いただけるよう広報に努めてまいります。

## 5. 草ぼうぼう町有地 – 仁木小学校東町有地について

町長は、地域に公園を造るという構想をお持ちと新聞で公表されましたが、ご存知ですか現実の町有地は、管理不行き届きで草ぼうぼうで公園どころではありません。

特に仁木小付近の町有地は、草ぼうぼうで近くの民家の皆さんは、虫の発生などに悩まされていると思います。また児童の通学路に隣接しているので、防犯上も交通安全上も危険であると思います。5月に町に除草を申し入れしましたが忙しいとのことで少しずつしか除草されません。役場庁舎は、きれいに掃除はしますが、遠くはなれた町有地はほったらかしで草ぼうぼう小学校付近は文

教地域では、ありませんか。学童も学校近くが草ぼうぼうなのに草も刈らないひどいどうしてだろうと小さい頃の記憶として残ると思います。

環境教育としてもよろしくないと思います。草ぼうぼうで苦む住民の迷惑が自分のことではないので気にもとめない。自分の家の前ならすぐに除草すると思います。どのように考えておりますか。仁木小東町有地以外でも草ぼうぼうで付近住民にご迷惑をおかけしている箇所は、町内で何カ所ありますか。把握されておりますか。その面積を公表してください。

町長の見解をお聞きます。

## 町長答弁

仁木小学校東町有地の除草の件について、付近住民の皆様にご迷惑をお掛けしたことについては、大変申し訳なく思っております。

今後は、そういったことが無いよう、常に状況の把握に努め、必要な場合には迅速に対応してまいります。

## ITを活用した 通学路の安全対策について

全国各地で通学中の子どもたちが死傷する痛ましい交通事故が発生しており、通学路における安全対策への関心が非常に高まっています。私たちの身の周りでも子どもたちは普段から田んぼに囲まれた道を歩くことが多く、お友達としゃべりながらじゃれ合って、不意に車道にはみ出したり、予測できない動きをしたりすることがあり、保護者としても自動車の運転手としてもヒヤッとすることは少なくありません。また通勤で職場へ急ぐ自動車が子どもたちの歩く横を減速することなく通り過ぎる場面もあり、子どもたちの通学は交通事故の危険と常に隣り合わせで、いつ事故が起きてもおかしくない状況で通学をしているのが現状です。子どもたちを悲惨な交通事故から守るためにも安心して通学できる交通環境を早期に実現し、持続可能な通学路における安全対策を確保することが求められています。

警察庁の統計によると、令和3年には歩行中の児童が死傷する交通事故の約4割が登下校中に発生しており、実に168人も児童が死傷をしています。このことから通学路において通勤等で交通量が多い通学時間帯の安全対策が課題となっています。子どもたちのかけがえのない命を守るためには、潜在的な危険箇所を特定し、常に先手を打つ「予防型」の対策を進めなければなりません。

輪之内町では平成24年、全国で登下校中の児童生徒が死傷する事故が相次いで発生したことから、平成24年8月に各小中学校の通学路において関係機関と連携して緊急合同点検を実施し必要な対策内容について協議をし「輪之内町通学路交通安全プログラム」を策定し、関係機関の連携を強化することを目的として「輪之内町通学路安全推進会議」を設置し、効果的な安全対策の実現を図っています。

これまで各小中学校は夏休み前に通学路における問題点等を保護者の方々に依頼し、夏休み後に各小中学校でまとめ、輪之内町通学路安全推進会議に提案をして対策の検討・実施を行っていますが、危険箇所の抽出については各学校関係者の経験や



林 日出雄 議員

感覚など、主観的な判断によるところが大きく、重点的な対策が必要な箇所を判断するには、車速や交通量等のデータに基づく客観的な分析が不足している状況で取り組みとしては限界にきているように感じます。そこで岐阜市の取り組みをご紹介します。

岐阜市は小学校の通学路の安全対策にビッグデータや人工知能(AI)を活用する取り組みを始めました。本年度は4地区で先行的に進め、来年度からその他の地区に展開をする予定になっています。先行する4地区では「通学路安全対策ワークショップ」を年3回開催し、急ブレーキの発生地点、抜け道などの車両走行記録を踏まえたビッグデータの活用やAIの活用によって潜在的な危険な場所を表示した地図を掲示して参加者は対策を講じる順位付けや対策内容を検討し決定するなど交通事情に精通した地元住民の意見とデジタル技術を合わせた新たな取り組みを始めています。

話は変わりますが、6月26日に輪之内中学校でAIを活用した情報モラル研修会が開催されたのでご紹介させていただきます。生徒には事前に情報モラルチェックシート&アンケートにご協力をしてもらい、その内容をAIに読ませることで輪之内中学校の生徒がSNSに対してどのような考え方をもっているのかをAIが分析し、解析した内容を講演でお話をしてもらい大変良かったと校長先生からお話をいただきましたのでご紹介させていただきます。

話は戻りますが、岐阜市と輪之内町では予算の規模も全然違いますのでビッグデータやAIの活用に関しては予算的に厳しい部分もあると思いますが、輪之内町に合ったITの活用をご検討してはいかがでしょうか。また学校運営協議会をもっと活用して地域の見守り隊の皆さんや登下校で低学年の面倒をみてもらっている6年生に参加をし

てもらい通学路の安全対策のワークショップ等を開催してはいかがでしょうか。

教育長のご見解をお伺いいたします。

## 教育長答弁

令和4年度の内閣府調査によると、小学生の死傷事故の80%は通学途中であるという報告があります。

輪之内町では、朝の通勤の時間帯に交通渋滞を避けるために、細い道や見通しの悪い道に車が多数進入し、減速することなく通り過ぎる様子が見られ、通学路の安全確保は喫緊の課題であると考えます。

そのため、学校での交通安全教室、PTAによる通学路点検、見守り隊による子どもたちの安全のサポート、町の「通学路安全推進会議」による危険箇所の確認や改善を行っていますが、人の力だけでは限界があります。

林議員のご指摘の通り、ITを活用することは、

ビッグデータから統計的に危険箇所を特定できるというメリットがあります。

ただ、岐阜市のIT活用の事例は輪之内町の交通事情の実態に合うのか、費用はどれくらいかかるのかなど、検討が必要です。また、実際に効果はあったのか、岐阜市の先行事例の結果を見届けたいと思います。

新型コロナの影響で地域活動が停滞している中、地域学校協働活動の一環として新しい試みに取り組もうとすることは、地域活性化の起爆剤になるものと考えます。また、取組への子どもの参画は、持続可能な社会の創り手の育成としての効果が期待できます。教育委員会としてもこういったチャレンジは大いに応援したいと思います。

## 浅野 進 議員の質問

### 留守家庭児童教室は希望者が安心して入室できるように整備してください

朝倉町長は所信表明で少子化問題に触れています。「平成30年の出生数82人に対し、令和4年の出生数は41人と半減しています」と述べ、「子ども・子育て政策は極めて深刻で先送りできない最優先の課題」と主張しています。安心して子育てできる環境を整える必要性は町長と認識を異にするものではありません。

留守家庭教室を希望してもなかなか受け入れてもらえないとの不満が出ています。特に祖父母のいる家庭においてはなおさらです。祖父母が在宅



浅野 進 議員

しておれば適切な保護ができる家庭との認識からではないかと推測します。祖父母の健康状態や家庭環境も様々です。

条例では町長がやむを得ない理由があると認める場合は、入室することができることとなっています。

## 教育長答弁

放課後児童クラブは、就労で親がいない時間帯に子供たちを支援するもので、地域の子供たちに安全な環境と共に、教育的な活動や社会的な交流の機会を提供する重要な施設です。

現在、輪之内町放課後児童クラブの設置等に関する条例施行規則第5条において、クラブの定員は、1クラブ30人以内となっていますが、併せて、教育委員会は、必要があると認めるときは、



クラブの規模を変更することができるとなっております。

現在、福束児童クラブでは、通年 27 名、長期休暇 10 名 計 37 名、仁木児童クラブでは、通年 18 名、長期休暇 13 名 計 31 名、大藪児童クラブでは、通年 38 名、長期休暇 23 名 計 61 名を受入れております。

夏休み期間中は、受入れ人数が多くなり、既存の教室だけでは足りないため、福束と大藪のクラブは、コミュニティ防災センターを借りて、各地区 2 教室で開室する予定です。

ご承知のとおり令和 5 年 6 月から、放課後児童クラブは業務委託を開始いたしました。その背景には、支援員不足があります。急遽支援員が休んだ場合は、職員が替わって対応することもありました。受け入れ人数を増やすには、十分な支援員や空き教室等の施設の確保が必要です。子供たちの安全性や適切なサポートの提供を保証するためには、適切な人員配置と施設の整備が欠かせません。

現状では、希望者全てを受け入れる事は、なかなか難しいですが、各家庭の事情を丁寧にヒアリングし、今後、出来る限り、受け入れが出来る方策を検討していきたいと考えています。

地域の子供たちが安心して成長できる環境を提供するため、取り組んでまいりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

※留守家庭児童教室は放課後児童クラブに名称変更されました。



## 上野 賢二 議員の質問

### 輪之内町の未来を切り拓く課題 地域活性化について

朝倉町長は「未来につなげる」～子どもたちに胸をはって誇れる故郷へ～をスローガンにこんな輪之内をめざすとして、地球に優しい輪之内を目指した環境対策、地域の安全で安心な日常を確保するための地区コミュニティの共助の強化、出会いから子育てまでライフステージに応じた少子化対策等を掲げ、新たな輪之内町のかじ取りを託されました。議会初日の所信表明においてもデジタル化の推進・少子化への対応・安定した財政運営・環境問題・安全安心な日常の確保・健康福祉について思いを述べられ、全身全霊取り組んでいく覚悟を示されました。

私も同様の思いであり、これからの町政 4 年間で町の未来を左右するといっても過言ではないと思います。危機感を持ってともに取り組んでいく所存でございます。

輪之内町の未来を切り拓く多くの課題につい



上野 賢二 議員

て、順次一般質問に挙げてまいります。今回は地域活性化について質問いたします。

3 年余りに及ぶコロナ禍により、町のイベントや地域行事が中止や規模縮小となり、町民の町への思い、地域への思いが希薄化し、町及び地域に活力が無くなりました。

まずはこれを取り戻し、更なる向上策を講じなければなりません。

町の活性化策として町の四大イベントである春の千本桜まつり・初夏のあじさいまつり・夏の納涼ふるさとまつり・秋のふれあいフェスタの完全復活と今まで以上のパフォーマンス、パワーアップを図る必要があると考えます。

中でもあじさいまつりは令和元年の第11回以降、開催されておりません。理由としてコロナ禍もありますが、本戸区への依存度が強く、世代交代もあり、担い手不足が大きく影響していると思われます。本戸区の先人達が築き上げ、輪中堤を活かした町の観光イベントとしても定着化してきたところですがこのままでは存続が危ぶまれます。他のイベントと同様に実行委員会を立ち上げ、町のイベントとして町全体で取り組んでいく必要があると思います。また、町長は当選後の新聞取材に対して、公園を増やす環境整備にも言及されており、桜、あじさいの時期にはイベント会場として、普段は子どもたちの遊び場所や家族の憩いの場として現在ある中将姫公園を拡張整備してはどうでしょうか。どうかご一考ください。

地域活性化について町長は地区コミュニティの共助の強化が大切であると所信表明のなかで述べられております。その通りであると思いますが、各地区においても担い手不足や担い手の高齢化、少子化が著しく共助力も低下してきており、各地区の運営や行事、祭事の継続に支障をきたしてきているのが現状です。町長のスローガンである「未来につなげる」自然豊かな素晴らしいふるさと輪之内の歴史と伝統を未来の子どもたちに確実に引き継いでいくためには、各地区の活動や行事、祭事の広域化を検討する時期に来ていると思われます。広域化することで一つの区や団体で担いきれなくなった活動や事業の継続が可能になります。例えば、海松新田のごまんど祭や四郷神明神社の

ぞうすい祭など地域に伝わる多くの伝統ある祭事を一地区の祭としてとらえるのではなく、人的応援など校区等で協力し、従来の地区を中心とした校区や地域の祭として意識を共有し、実施していくことがこれからは必要になってくるのではないのでしょうか。町としても他人ごとではなく、未来を見据えた地域のありよう、新しい仕組みづくりを考えていかなければなりません。祭事については町の大切な伝統文化であることを職員全体でしっかりと再認識し、町民への継承周知に努め、支援協力することは言うまでもありません。

また、当町では現在地域づくりに繋がる地域学校協働活動として学校・子どもたちを核とした校区ごとのコミュニティスクールを推進しております。しかしながら、推進員等一部の役員での活動に留まっており、町民には全くと言ってもいいほど周知されておりません。この活動にそれぞれ単体で活動している各区自治会や近隣助け合いネットワーク、青少年育成町民会議、老人クラブ、子ども会育成会、PTA等の団体を巻き込み一体化した共同組織を構築し、校区町民全体で取り組んでいく必要があると考えます。この地域学校協働活動を活かしていくことが重要で最善な地域活性化策となるのではないのでしょうか。

まずは、町が、地域が、活力・元気を取り戻す。このことが輪之内町の未来を切り拓く最重要課題であると考えます。

地域活性化について町長の思い、ご見解をお伺いいたします。

## 町長答弁

議員ご指摘のとおり、地域共助の機運が高まりつつあった矢先、今般のコロナ禍により、3年余りの間、様々な地域活動が中止に追い込まれ、このことにより今まで地域の住民の皆様が地道に築いてこられた地域コミュニティの醸成気運が大きく後退してしまいました。

この何もしない状況が常態化し、各種行事やイベントの目的や開催意義自体が希薄になり、やらなくても生活に影響が無いとの考えに傾斜し、規模縮小または自然消滅してしまうことを最も恐れるものであります。

ただ、新型コロナが決定打になったとはいえ、それ以前から地域コミュニティの希薄化は懸念されていたように思います。従前から、地域の活動

は主に、現在町内に25ある「区」を中心になされてきています。農事改良組合が両輪で活動し、そのほかに、婦人会や敬老会、子ども会などがそれぞれの目的に対応する形で活動を行い、地域のつながりが保たれていたと思われます。消防団や女性防火クラブのメンバー選出も区を基本としています。

しかしながら最近では、婦人会や敬老会がなくなった地区も多く、子ども会活動も従前に比べてかなり少なくなっているようです。メリット、デメリット両方あり、どちらが良いと断定はできませんが、少なくとも地域住民相互の関わりが減っているのは間違いないところです。

このことから、まずは、これまでの、何でも各

区にお任せ、という考えを変えないといけないというところからスタートに立つ必要があります。

一方で、伝統芸能や町民の間に定着したイベントは一度やめたら復活は困難で、できる限り存続させていかなければなりません。

このような状況にあっては、議員ご提案の実行委員会方式や広域化を検討すべき時期に来ていると思います。一つの各区単位から広域化し、自分の地域だけでなく、ある程度広げた生活圏域で組織化するのもひとつかと考えます。

所信表明でも述べましたが、経済活動が新型コロナ前に戻ると同時に、さまざまな業種で深刻な人手不足にあることが明らかになっています。輪之内町にあっても多くの場面で、後継者や担い手の不足が言われ、人の確保が喫緊の課題になっています。

まずは、一人でも多くの町民の皆さんに、できるところから少しでも地域や町の活動に目を向け、興味を持ち、参画していただくことが必要と考えます。

そのためには、町の広報媒体などを通じて、行政の取り組みのみならず地域や個人の活動についても情報発信し、関心を持っていただけるよう努めてまいります。

また、NPOか任意の集まりかは問わず、そうした関心を持ってくださった方々が中心になって、地域と連携して活動していただけるような仕組み作りと、そうした活動に対する支援のあり方を検討してまいります。



## 大橋 慶裕 議員の質問

### 「人づくり」について

町長は「未来につなげる」をスローガンに、多くの町民の皆様からご支援をいただきました。

よく資源は、人・物・金と言われます。その中で一番肝心の「人」について、人づくりについてお尋ね致します。

私たちは、家族、学校、地域、友人、知人など生活の中でふれあう人々やその環境のなかで育ちます。将来を担う世代の人々やたくさんの知見を持ち、経験豊かな多くの町民の方々に、これから



大橋 慶裕 議員

の町づくりに参画していただくために、どのように取り組み、町づくりを進めて行かれるのか朝倉町長のお考えをお尋ね致します。

## 町長答弁

議員が言及されているとおり、経営資源として「ヒト・モノ・カネ」を言い、経営とはその再配分を行う行為と言われております。

その中でも「ヒト」については最重要資源と捉えております。

いわば「人材」の「材」は、「材料の材」ではな

く「財産の財」であると考えております。

それらの「財」をどのように活かしていくのか、将来を担う世代の人々やたくさんの知見を持ち、かつ経験知の高い人々を町づくりに参画してもらうにはどう進めて行くのかということです。

まず、たくさんの知見を持ち、かつ経験知の高

い人達の参画を促す方法として、我が国で先進事例として挙げられるのは、「アドバイザーボード」の設置という方法があります。事案毎に諮問機関を設置し、その事案に造詣の深い人に参画してもらう方法があります。

次に、若い世代の方々の参画を促すためには、若者向けのプログラムやイベントを実施することにより、その意見や提案を積極的に受け入れ、若者が主体的に町づくりに関われる機会を創出しなければなりません。これには、地域の子どもの参画はもとより、この地域の大学ともコラボレーションしながら進めるのも一策と思慮します。また、若者とのコミュニケーションを円滑にするため、そのツールとしてSNSやオンラインプラットフォームの活用を検討するなど「もの言いやしやすい環境」を整備することが必要だと考えます。

町が行おうとするその計画が魅力的なもので、熱い想いがこもっていれば多くの人を引き付けら

れると考えます。

併せてそこで要求されるのが、行政としての調整力、いわばコーディネータ力だと思います。そうした見地からも職員もよりスキルを向上させる努力は不可欠です。

そして、こうした意識の下で集った官民の間が、企画・活動を通じ協働意識を醸成できればそのエネルギーが大きくなっていくものと考えます。

そうしたことから、まずは、町民の皆さまが「どのような町にしたいのか」そして「誇れる町」にするにはどうするかという考えを持ってもらえ、意思表示できる具体の仕組みづくりから考えることから始めたいと考えております。

## 田中政治 議員の質問

6月の定例会開催が選挙等の関係で7月開催となりました。田植えも終わり、緑が目飛び込んできます。一方梅雨末期の大雨で九州地方や、山陰地方では激甚災害が発生しお見舞い申し上げます。

朝倉町長ご当選おめでとうございます。16年ぶりに新町長を迎え、私たち町民も大きな期待を致しております。また、木野隆之前町長さんには、多くの事を学ばせていただき、輪之内町の発展に大きく貢献されました事、大変有り難く思っています。ありがとうございました。

さて私も、皆様方の暖かい大きな応援をいただき、あつかましくも7期目の当選をさせていただきました。長年の経験と、皆様方の御意見を真摯にお聞きし反映させていただきたいと思っています。



田中 政治 議員

### 1. 選挙期間中に事務所にて多く寄せられた質問について

- ① 大吉新田地内に建設中の防災拠点について、どのようなものが、いつ頃できるのか？
- ② 柿内地内、本郷地内にある巨大なコンクリートは何？

という質問です。いずれにしても、工事が進んでいないため、よく理解できない。

私なりに、お答えはしましたが改めて答弁をください。

## 町長答弁

① まず、建屋については、指令室機能を備えた水防活動拠点施設、水防倉庫、住民の避難所となる避難所施設、そしてマンホールトイレを建設予定でございます。

また、普段使いをするため、災害時の駐車場広場を兼用するクレーコートのサッカーグラウンドや消防団の訓練場を整備しようとする計画です。

完成については、昨年度から西幹線道路から拠点までの取付道路の施工を始めておりますが、現時点での完成予定年度は、7年度の完成を目指しております。

しかしながら、限られた財源で執行しなければならないことから、過度な材料、材質、また贅沢な設備導入を避けるべく、詳細設計段階から十分な検討を重ねるとともに、併せて補助金・町債等の採択に努めなければなりません。不採択となった場合には、工事期間延伸もありうると考えております。

② 田中議員からもお答えしていただいたとことで誠にありがとうございます。

松内取付道路は、揖斐川堤防道路と県道安八平田線を繋ぐ道路として令和元年度に事業着手しております。

現在までにボックスカルバートを設置し、昨年8月には計画道路の概要案内看板を現地に設置しております。

工事施工期間につきましては、国、県、公安委員会との協議が必要なため、令和8年度の完成を目標として鋭意進めているところであります。

今年度の工事が完了しますと道路形状が見えてくる形になります。

松内取付道路は、町南部地域の広域幹線道路として位置付けておりますので、今後とも事業へのご理解、ご協力をお願いいたします。

## 2. 町制70周年を迎えるにあたって

町長の所信表明にもありましたが、輪之内町を知る上で、先人達が水との闘いで大変な苦勞をされた上で、今日の繁栄があると述べられ、そうした先人の苦勞に恥じないよう、子供達に胸を張って誇れるふる里輪之内町へと決意を述べておられます。

輪之内町は来年で70周年を迎えます。

町制35周年記念事業として、当時有名なダ・カーポさんによる「緑きらめく町」の制作、平成

10年10月に薩摩義士の遺徳を偲び「洗堰に日は昇る」という創作劇を作りました。

今では全く耳にしなくなりましたが、この機会に歌のリニューアル、また輪之内町を語る上で最も大事な1つの薩摩義士の再演、またはアニメ化をして広く子供達や、町外から移住していただいた皆さんにも知っていただき後世に継げる大事な文化、歴史であると思いますが、町長さんのお考えをお聞きます。

## 町長答弁

昭和29年4月に1町2村が合併して輪之内町が発足してから、来年4月で70周年を迎えることとなります。

この間、議員ご指摘のとおり、平成元年の町制35周年にはダ・カーポの「緑きらめく町」に加え、「たんぽぽ音頭」と「新輪之内音頭」の3曲が制作され、町民の皆さまにも親しまれてきたところです。また、60周年記念事業においては、町

の新しい曲として「いつまでも輪之内」が発表されたことは記憶に新しいところです。

町制70周年の記念事業の内容については、あまり時間もありませんが、これからいろいろな方のご意見をお伺いしながら詰めていくこととなりますが、周年事業の意味合いは、過去を振り返り未来を想像するための機会であると思っています。

そのため、まずは、先人達の水との戦いという

苦勞があって今の輪之内の繁栄があることをきちんと後世に伝えていきたいと考えています。

一方で、少子高齢化や地球温暖化、ウィズコロナといった不確実で先の見えない時代にあって、小さな輪之内町にあってもデジタル化により一瞬

で世界とつながる、そういう時代であることを意識しながら、「何を子どもたちにメッセージとして残すべきか」を念頭に事業計画を立案して参りたいと考えています。

### 3. 少子化対策と学校教育について

所信表明でも急速に進む少子化への対応を述べておられますが、当町におきましても、出生者数令和元年 67 人、令和 2 年 64 人、令和 3 年 46 人（仁 13 人、福 10 人、大 23 人）、令和 4 年 45 人（仁 11 人、福 9 人、大 25 人）合計特殊出生率も令和 4 年は 0.96 で全国と比較して 0.3 ポイントも低い状況で最優先の課題です。

国も児童手当、福祉等多くの支援を打ち出していますが、一過性（目先のものが多く）、子供を育てる前に、結婚、不妊治療や妊婦検診へ理解を深

め、強力に支援することが大事と考えています。特に不妊治療は大きな負担、金銭的にも身体的にもかかると聞いております。

町長の考えをお尋ねします。

また学校教育においても、教育の質の向上や、小中一貫の義務教育学校、学校の形態も変わってくると思われま。これから（近い将来）に来る事態に備え、学校統合か、小規模学校の良さを生かした学校づくりか、活力ある学校づくりについて、町長、教育長のお考えを聞かせてください。

#### 町長答弁

所信でもお話ししましたが、今後の取り組みにあたっては、まずは子どもを産むスタートとして男女に出会いの場を提供すること。さらに国、県と連携を取りながら、不妊治療や妊婦検診への助成を考えております。

そして、その後のステージごとへの各種支援など、これまでの助成制度の利用状況などを踏まえ、総合的な観点で議論を進め、未来への投資としてどんな施策が有効かを判断しながら果敢に進めていきたいと考えております。

そのうち、議員からは、特に不妊治療についての言及がありました。

今まで不妊治療については、各自自治体個別の助成制度を設けその対応にあたってきた経緯がありますが、その内容は自治体によってばらつきがありました。そこで、昨年度から、厚生労働省では不妊治療を保険適用案件とするよう制度改正がなされ、いわゆる国の施策において、セーフティネットを強化した経緯がございます。

これも、国の少子化に対する危機感の表れであり、ようやく本腰を入れてきたと思慮しております。

子どもを産み育てたいと切望する方にとって、

子どもを授けられないということは、金銭的、身体的、精神的に相当な重圧だと思慮します。今後は、こうした方々のご意見も伺いながら、現在では岐阜県での単独助成制度もありますので、その制度と合わせて包括的な助成制度の充実に努めてまいります。

最後に、学校教育の将来についてお答えします。

少子高齢化は、日本における重大な問題として存在しており、特に少子化は急速に加速している現状であります。

輪之内町においても、小中学校の児童生徒数について、直近 10 年間の推移をみますと、平成 24 年度の 920 人が、令和 5 年度では 756 人と、17.8 パーセントの減少となっており、今後も減少傾向が続くものと考えています。

そのうえで、公立小学校・中学校の適正規模・適正配置（学校統廃合）について、基本的には、「学校規模適正化の検討は、児童生徒の教育条件をより良くする目的で行うべきもの」と考えております。学校統合を行うか、学校を残しつつ小規模校の良さを活かした学校づくりを行うか、活力ある学校づくりをどのように推進するかは、地域の実情に応じたきめ細かな分析に基づき判断すべき

ものと考えております。

今日、全国的な流れとして、少子化に伴い学校の小規模化が急速に進んでおります。学校の小規模化についての影響は、クラス替えできず人間関係が固定化することや、誰かと競ったり切磋琢磨する機会が少ないことから、社会性やコミュニケーション能力が身につけにくいことなどがあげられます。一方で、少人数であることを生かし、外国語の指導や実技指導等、教育活動の徹底や個別指導・繰り返し指導の徹底による学習内容の定着など、児童生徒ひとりひとりに対して目が行き届くため、個々の学習面の苦手箇所の把握がしやすく、早期にウィークポイントを解決することができます。小規模校のメリットを最大化し、デメリットを最小化することができるような小規模校を存続させる方策も考えられます。

今後、将来を担う子どもたちにとってより良い教育条件や最適な教育環境を整備していく必要がありますが、統廃合がもたらす地域コミュニティへの影響も相当程度考慮する必要があります。

## 教育長答弁

令和3年版の文科省教育統計によりますと、先進諸国の小中学校の1学級の人数は、約20人ほどです。日本はOECD加盟国の中で、小学校・中学校ともに2番目に多い人数となっておりますが、輪之内町の場合、概ね理想的であるといえます。したがって、昨年9月の第3回定例町議会の答弁の通り、当面は小規模校のメリットを最大限に生かした教育を推進していくことで、活力ある学校づくりを進めてまいりたいと考えます。

昨年10月の定例教育委員会においても小中学校の統廃合について話し合い、答弁内容と同様の考えで一致しております。

ただし、いずれは学校統廃合を検討する時期がくるかもしれないということで、その判断の目安について話し合いました。

令和3年度に統合した関ヶ原町、令和6年度統合予定の大垣市上石津地区や海津市旧海津町では複式学級が存在する学校がありました。複式学級は一般に教育上の課題が大きいため、複式学級解消が学校統合の一つの理由となります。

輪之内町の場合、大きな転出がなければ、出生数からいって少なくとも今後7年間は複式学級が発生する心配はありませんが、複式学級が存在す

す。将来の輪之内町のまちづくりとあわせ、その在り方を慎重に模索してまいります。



る規模になることが予想される時期を「検討委員会」立ち上げの判断の目安とするということを確認しました。

また、大垣市上石津地区では、地元連合自治会からの学校統合の要望書が提出されましたが、このように地域住民の声があがった場合も、判断の目安となるということも確認しました。

少子化の大きな流れの中で、学校の統廃合は避けては通れないかもしれません。しかし、学校は地域のコミュニティであり、子どもたちが地域と関わり、愛着を育む場でもあります。ですから、学校の統廃合は行政単独で進めるのではなく、行政や学校、保護者や地域住民が意見を出し合うプロセスを大切にしていくことが不可欠であると考えます。

状況は絶えず変化しています。当面は小規模校のメリットを最大限に生かした教育を推進していきながらも、毎年、出生数を考慮しながら、活力ある学校づくりを進めるためにはどうすればよいか、教育委員会や総合教育会議で継続審議していきたいと思っております。

# 委員会報告

主な質疑

Report

各常任委員会は、7月11日開催され、令和5年度一般会計補正予算、令和4年度水道事業決算の認定及び剰余金の処分、合わせて3議案を審査し、いずれも原案のとおり認定・承認すべきものと決定しました。

## 総務産業建設常任委員会



### 令和5年度 一般会計補正予算（第2号）

#### 危機管理課

Q 備蓄食糧は何年保存のものか。また、備蓄している食糧は全体を何回かに分けて更新しているのか

A 基本的には5年保存のものを備蓄し、購入から4年経過の時点で更新している。また、食糧は役場及び各小学校の4施設に備蓄しており、施設単位で4年に分けて更新している

Q 食糧を備蓄している施設の管理者は誰なのか

A 平常時の管理は役場は危機管理課をはじめ町職員、各小学校は小学校長となるが、災害等の緊急時には各小学校も役場職員にて施設の解錠や管理を行う

Q 避難所での備蓄食糧の配布方法等についてもルール付けや訓練を行った方が良いのではないかと

A 避難所の設置や運営については、数年前から毎年町職員にて訓練を行っている。さらに今年度は11月に町全体の防災訓練を実施予定であり、そこで各区長や防災士連絡協議会の協力のもと、避難所の設置及び受け入れの訓練を実施する予定

#### 産業課

Q 物価高騰における産業支援金で算出する電気代は事業用と家庭用でどのように区別するのか、また対象事業所数370の根拠は何か

A 電気代の区別は確定申告書などの資料で確認を行う、また事業所数の根拠は令和3年度に実施された経済センサス活動調査の事業所数である

Q 物価高騰における産業支援金について、町内に事業所を有しているが、町内に居住していない方は対象になるのか

A 町内に事業所を有していれば対象になる

Q 事業継続力強化計画はどのような内容か

A 自然災害等による事業活動への影響を軽減することを旨とし、事業活動の継続に向けた取り組みを計画するもの

Q 事業継続力強化計画策定助成金の補助要件は何か

A 経済産業大臣から事業継続力強化計画の認定を受け、事業継続に向けて取り組みを行う。申請等は商工会が支援している



● 令和4年度 水道事業の決算の認定について及び水道事業の剰余金処分について

建設課

Q 現在の未収金はいくらか。また、未収金のうち、不納欠損できる金額はどの科目であるか

A 6月末現在の未収金は11,970,527円である。また、不納欠損ができる金額は破産更生債権の金額

Q 有収率86%であるが、原因は漏水であるか

A 漏水のほか、火災等による消火栓使用水量である

Q 企業債の一部償還ができるのか

A 一部償還はできるが、現時点では考えていない

Q 給水単価が前年より上がっているが問題ないのか

A 前年より工事費用が増加しているため給水単価は上がっているが、経営状況に問題ない



文教厚生 常任委員会



● 令和5年度 一般会計補正予算（第2号）

住民課

Q デマンドバスの高齢者対策について詳しい説明をおねがいしたい

A 高齢者や障害者、免許自主返納者に対して、今のデマンドバスのバス停に自宅前で乗降できる仕組みを加えていきたい

Q デマンドバスのバス停の国の設置基準はあるのか

A 輪之内町の基準として300メートルの基準はあるが、国の基準はない

Q 新たな運行方法はどのように考えているのか

A 登録制とし、現在のバス停の代わりに登録いただいた方の自宅に迎えに行く方法を考えている

Q デマンドタクシーに切り替えてはどうか

A 町内にタクシーの営業所がないため、経費がかさむのではないかと懸念しているが、今後検討して行きたい

Q 今回の補正予算は当初予算に不要であると判断されたものを体制の変更により復活したのか

A 投資的経費については骨格予算とし、体制が整ってから今回の補正予算として計上することとした

Q デマンドバスの待合の整備が必要ではないか

A 必要に応じ整備をし、またバスが時間どおり到着することでお客様を待たせないようにしていきたい

## 福祉課

Q 新型コロナウイルスワクチン接種について、第9波が予測されているが、ワクチン対応の予定はあるか

A 第7回目接種として秋冬開始に向けて準備をすすめている

Q 最近のワクチン接種率はどれくらいか

A 第5回目の接種率が町 27%、国 26%で、全国平均並である

Q ワクチンを接種しても発症する人がいるが、ワクチン接種の目的についてどう考えているか

A 接種開始当初は発症予防が主たる目的であったが、ウイルスの度重なる変異により、現在は重症化防止を主たる目的にしている

Q 電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金について、支給対象 500 件の根拠は何か。また、いつから支給されるのか

A 令和4年度は500件超の世帯に書類送付し、479件の支給実績があったので、この実績に基づき、令和5年度は500件の見込件数を算出した。7月中旬以降に対象世帯に必要書類を送付し、8月初めから支給する予定である

**意見** 非課税世帯に限らず住民全体への給付についての要望があるので、検討していただきたい

Q 安八温泉入場券の最近の購入状況はどうか。また、安八温泉の現在の営業時間はどうなっているか

A 令和4年度の回数券の販売は425冊に対し、令和3年度はコロナの影響で減少し、321冊であった。営業時間は12:30～19:00、月・木・年末年始が定休日である

## 教育課

Q 当町ではゼロカーボンシティを宣言しているが、青色パトロール車の購入は、電気自動車か。また、狭い道路をパトロールするため、車種を見直したらどうか

A 青色パトロール車は購入後、19年経ち、エンジンも調子が悪く、現在、総務課で別の公用車を借りている。至急購入したく、電気自動車も検討したが、現在と同じ車種で、イベント等でも使用できるカラーフィルダーを検討している

Q 青色パトロール車を運転するには、資格が必要なのか。また、その資格の更新期間は何年か

A 大垣警察署生活安全課による講習を受け、パトロール実施者証が発行される。更新期間は3年である

Q AI通訳機ポケットークは、1台3万円で計上しているが、1台1万円程度の安価な製品とし、購入台数を増やしてはどうか

A 台数を増やすより、機能のよいポケットーク(wi-fiが受信できない場所でも対応できる機種)を選定した



## 仁木小学校6年生が議場を見学しました

7月19日（水）、仁木小学校の6年生27名が議会の仕組みや、役割について学習するため議場を見学しました。

町議会の仕組みや議員の仕事についての説明を議会事務局長から受け、熱心にメモを取り、その後、実際に議員が使う席から児童8名が町長に質問をしました。

児童たちは「輪之内町の魅力を全国に伝えてほしい。」「たくさんの友達と学んだり、遊んだりできるように、小学校を1つにしてほしい。」など質問し、朝倉町長が1つ1つ答えました。

また、普段は入ることができない場所を見学し、議長席、議員席、執行部席、傍聴席に実際に座ることによって臨場感を体験しました。

これからの輪之内町を担っていく子ども達に議会について学んでもらう良い機会になったと思います。



## 文教厚生常任委員会による町内小中学校の視察訪問

7月11日（火）午後より、大藪・仁木・福東小学校・輪之内中学校へ訪問いたしました。各学校長から学校の教育目標や活動内容等の資料をご用意していただき、分かりやすく丁寧に説明していただきました。授業を拝観しましたが、コロナ以前のように活発に生徒達が授業に参加する姿が見られ、喜ばしく思います。タブレットの使用も以前訪問したときより、上手に使っている印象でした。また、体育館のトイレの洋式化等の要望がありました。輪之内町も少子化が進んできており、将来に向けて小学校の統合も考慮しながら子供たちの教育環境の充実や施設の有効的な活用を検討していく必要があるのではないかと意見もありました。学校の先生方には熱心な教育をしていただきありがとうございます。未来に夢と希望をもち、生きる力を育むふるさと輪之内の教育を目指し、議会も一層の努力をして参ります。



本会議における

# 一般質問一覧



田中実 議員 P08

- 1.朝の通勤本当に困ります -福東大橋渋滞解消について
- 2.なぜ輪之内に消防署ができないのですか -大垣消防組合の負担金と輪之内分署の新設について

- 3.高校受験の春は泣かせない -高校受験生の塾代の助成について
- 4.土日勤務の保護者もいます -土日祝日保育について
- 5.草ぼうぼう町有地 -仁木小学校東町有地について



浅野進 議員 P16

留守家庭児童教室は希望者が安心して入室できるように整備してください



上野賢二 議員 P17

輪之内町の未来を切り拓く課題地域活性化について



大橋慶裕 議員 P19

「人づくり」について



林日出雄 議員 P15

ITを活用した  
通学路の安全対策について



田中政治 議員 P20

- 1.選挙期間中に事務所に多く寄せられた質問について
- 2.町制70周年を迎えるにあたって
- 3.少子化対策と学校教育について

## 編集後記

「わのうち議会だより」139号をお届けします。

今年の5月の改選後、初めての定例議会が7月6日から14日まで9日間開催いたしました。朝倉新町長の所信表明があり、一般質問の日には多くの町民の方が議会の傍聴に来られました。大変有難うございます。今回の補正予算は、社会経済対策と子育て支援の施策が主な議案になります。また、新町長に6名の議員が一般質問を行いました。人口減少・高齢化社会に向けて様々な課題に対応していく必要があります。多くの町民の皆様の意見を頂戴し、町政に反映出来るよう努めてまいります。ご支援・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

## 議会広報編集委員会

委員長 大橋 慶裕

副委員長 田中 実

委員 浅野 重行 林 日出雄



次の議会は9月の開催予定です。  
ぜひ傍聴にお越しください。  
議会の日程は決まり次第  
ホームページでお知らせします。



輪之内町議会  
ホームページ